

## 令和2年度 第1回 周南市地域づくり推進協議会 会議録

1. 日 時 令和2年10月29日(木) 18時00分～19時30分
2. 場 所 周南市シビック交流センター 交流室1
3. 出席者 内山浩昭 委員、勝間田真実 委員、小林和子 委員、近藤英夫 委員、  
坂根美音 委員、繁永政志 委員、竹内裕光 委員、鶴本宏美 委員、  
羽田司 委員、藤田辰夫 委員、船崎美智子 委員、増野英里奈 委員、  
渡辺明彦 委員、渡辺裕子 委員（以上14名）
3. 欠席者 なし
4. 事務局 地域振興部 高木  
地域づくり推進課 荒美、菅田、三牧、江川、中嶋
5. 傍聴者 なし
6. 会議内容

### 開 会 事務局が司会進行

- ・市民憲章唱和
- ・あいさつ 地域振興部長 高木 一義
- ・委員・事務局自己紹介
- ・会長・副会長選出（会長に羽田司 委員、副会長に船崎美智子 委員が就任）

### 議 事

発言者	発言内容
会 長	これより議事に入る。 それでは次第に沿って進める。 はじめに、議事の ア) 地域づくり推進協議会委員の役割について、事務局より説明をお願いします。
事務局	別紙資料をもとに説明
会 長	事務局からの説明に対し、何か不明の点や質問はないか。
委 員	— 質疑なし —
会 長	次に、議事の イ) 地域づくり推進計画の概要について、事務局より説明をお願いします。
事務局	別紙資料をもとに説明

発言者	発言内容
会 長	事務局からの説明に対し、何か不明の点や質問はないか。
委 員	— 質疑なし —
会 長	次に、議事の ウ) 地域づくり推進計画の評価について、事務局より説明をお願いする。
事務局	別紙資料をもと説明
会 長	事務局からの説明に対し、何か不明の点や質問はないか。
委 員	— 質疑なし —
会 長	最後に、議事の 工) 委員からの情報提供として、本日の会議に対する意見や感想に加え、各所属において実践している地域づくり活動などについて、情報提供をお願いする。
会 長	<p>周南市において人口減少が進む中で、特に山間部、島しょ部が大きな課題を抱えていることが分かった。こうした中で、市民と行政が連携しながら、各地区の地域性に応じて、事業を構築する必要がある。</p> <p>また、関係人口については、研究の最先端にあるようなホットなワードである。こうした新たなことに挑戦することでより良い地域づくりにつながると思う。</p> <p>徳山大学においては、今年度地域共創センターを立ち上げた。大学との連携の窓口になるので、是非ご活用いただきたい。</p>
委員 A	自身は、北部の拠点化に関わっている。北部地域については、須々万地区を頼らなければ生活の維持が困難な状態にある。拠点施設を整備することで、便利よく、安心して暮らせる地域の実現に期待したい。
委員 B	所属においては、地域活動等への助成金を交付し、支援をしている。
委員 C	<p>所属においては、地域づくりや街づくりに取り組んでいる。地域づくりに対する強い思いを持った委員の皆様から、意見や助言をいただきながら、事業を進めていきたい。</p> <p>今年度はコロナの影響でイベントが軒並み中止になっている。冬のイベントは規模を縮小して実施する予定。</p>
委員 D	<p>市の施策への理解を深めながら、市と学校との連携について考えていきたい。</p> <p>所属においては、地域や、企業、大学等とのハブ機能を持つことを意識しながら、コミュニティスクールをはじめ、様々な取り組みを行っている。</p>
委員 E	コミュニティスクールを通じて、地域おこしをテーマとした授業に住民が参加したり、地域行事に子どもたちが主体的に関わる仕組みができるなど、子どもたちに地域への関心を深めてもらう企画が動き始めている。

	学生の若いアイデアは地域にとって良い刺激になっている。
委員 F	地域づくりは、意欲のある人をいかに導き、手助けしていくのが重要であると再認識した。 自身の活動としては、関係団体と連携して、夢風車通りへのベンチの設置や、緑化を計画している。地域と連携を図りながら、歩きやすいまちにしていきたい。
委員 G	所属においては、新たな市民活動の創出体制の構築に取り組んでいる。市民活動やコミュニティ活動の情報は HP 等に掲載しているので、是非ご覧いただきたい。また、市民活動支援センターにもお越しいただきたい。
委員 H	地区では、子どもを減らさないための様々な取組みをしている。地域の学校との連携も進めており、現在は、地域の防災について、子どもたちと一緒に学んでいる。今後もこうした地域活動をやりたい人と、それを助けてくれる人とのつながりを作りながら、地区を発展させていきたい。
委員 I	所属においては、市と共同で、生活支援体制整備事業に取り組んでいる。地域において、生活課題解決に向けた話し合いの場づくりをする取組みで、市内 13 地区で整備が完了している。
委員 J	県内の 5 つの市民活動団体に対して、県外から 25 名がプロボノで支援している例がある。山口県のファンが県外にいる中で、関係人口を増やしていく取組みは重要である。
委員 K	自身は他市の出身だが、子供のころは地域の行事が沢山あった。現在は、自分の子どもがそうした行事に参加する機会がなく、寂しく感じている。今後、地域のふれあいの場が創出されることを願っている。
委員 L	地域づくりのメニューの多さに驚いた。今後の評価に向けて勉強していきたい。 所属においては、市内の宿泊施設利用者へのクーポン券のプレゼントや、各種イベントなどを計画している。
委員 M	自身は、海を使ったイベントなどを実施している。昨年度は、和田地区と鼓南地区の子どもたちを対象に、サップ体験教室を実施した。 周南市には、今まで海を使ったイベントがあまりなかった。今後も各団体と連携しながら、子ども向けのマリンスポーツ体験教室や、水難事故の防止に関する啓発などを行ってきたい。
会 長	以上で本日の議事を終了する。

閉 会